

令和元年度病害虫発生予察情報速報

令和元年9月10日
長崎県病害虫防除所長

普通期水稻 トビイロウンカの発生状況及び防除について

トビイロウンカについて令和元年9月3日付け注意報第4号発表後の発生状況は下記のとおりであり、一部では寄生密度が非常に高い圃場や坪枯れの発生も見られています。

これまで天候不順により適期防除が実施できておらず、また、実施していても効果が不十分な圃場においては、急激に坪枯れの被害が増大することが予想されるため、下記の点に留意して防除の徹底をご指導願います。

記

1. 発生状況等

- (1) 8月後期の巡回調査でトビイロウンカの発生量が多かった2圃場について9月9日に調査した結果、株当たり虫数が74.8頭(8月後期 11.8頭)、122.5頭(8月後期 5.8頭)と著しく増加していた。齢別には若齢幼虫主体であった。
- (2) 現在実施中の9月前期の巡回調査(86筆中28筆調査済み)の結果については、株当たり虫数0.2頭(8月後期 0.2頭)、発生圃場率は50.0%(同 28.6%)であった。
- (3) 9月1半月の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数は3.1頭(過去7ヵ年平均 7.1頭)、寄生株率は44.0%(同 42.0%)であった。
- (4) 坪枯れの発生は9月前期の巡回調査や各振興局からの聞き取りにより確認しており、発生時期が早い。
- (5) 気象予報(福岡管区气象台、令和元年9月5日発表)によると、向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

2. 防除対策

- (1) 本虫は出穂期以降、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を及ぼすため、圃場での発生状況を確認し、水稻の株元に成虫及び幼虫を確認した場合は速やかに防除を行う。
- (2) 本虫の発生は圃場間や同一圃場内でも偏りが大きい。このため、防除を行った圃場でもその後の発生状況に十分注意し、防除効果の確認を行うとともに必要に応じて追加防除を行う。
- (3) 本虫は株元を好んで寄生するので、薬剤散布は株元に薬剤が十分に付着するよう丁寧に行う。
- (4) すでに坪枯れが発生している圃場では被害の拡大を防ぐため早急に防除する。また、多発生圃場で水稻が収穫可能な時期に達している場合はできるだけ早めに刈り取る。
- (5) 収穫時期が近いので、薬剤の散布時期に注意し使用基準を厳守する。また、周辺環境を十分に確認し、ミツバチも含め周辺動植物等への飛散などによる影響がないよう十分注意する。

○水稻穂吸汁性カメムシ類防除のため水田に散布する殺虫剤により、「蜜蜂」に被害が生じる可能性がありますので、十分な配慮をお願いします。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」

アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

